

縞萎縮病に強いうどん用小麦新品種「きたほなみR」※1

※1 2024年3月品種登録出願済み

背景

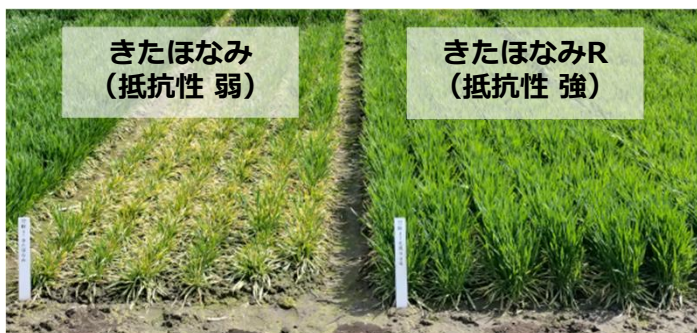
日本で最も多く栽培されている小麦品種「きたほなみ」は、道内で発生地域が拡大している縞萎縮病に弱く、被害が深刻化している。



成熟期をむかえた「きたほなみR」

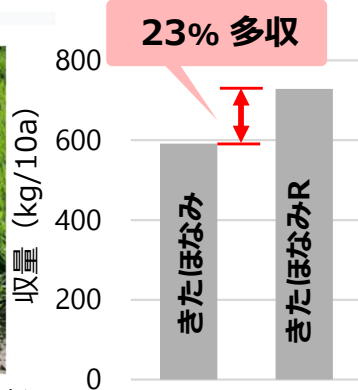
成果

1 縞萎縮病※2に強い



※2 北海道の小麦の最重要病害で、農薬による防除が難しい。

縞萎縮病の発生している畑では、抵抗性を発揮して多収となる

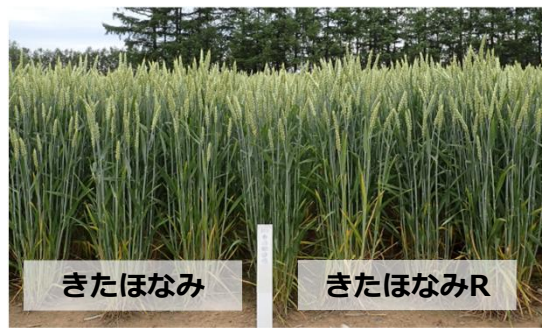


2 うどん品質が優れる



「きたほなみ」と同様に色と食感が優れる

3 育て方は今まで通り



縞萎縮病の発生していない畑でも「きたほなみ」と同様に栽培可能（遺伝的に限りなく「きたほなみ」に近い）

期待される効果

「きたほなみ」の全て（9万ha）に置き換えて栽培され、道産小麦の安定生産に貢献する。